

# ノウフク・ラボ 探求 成果報告

---

ノウフク・ラボ2023 運営チーム

みんなで耕そう!

ノウ フク

NOUFUKU PROJECT

## 農福連携企業向け勉強会(全 1 回)

## 現場向けセミナー&意見交換会の開催(全 3 回)

- 通年就労の確保
- 人材育成と繋がり
- 農福連携の現場におけるIT活用の可能性

# 02 農福連携企業向け勉強会



## 農福連携企業向け勉強会



### 目的 (Mission)

「障害特性を生かした仕事の作り方」のヒントに！  
企業が農福連携に取り組むメリットは何か、また農福連携等応援コンソーシアムのプラットフォームを活用し、どのような取組（応援）ができるかを知っていただくための勉強会を開催。  
オンライン参加を含め、**65の企業に参加いただいた。**

### 内容 (Content)

#### 講演

ハートランド(株)  
(コクヨ特例子会社)  
水谷氏

- 播種から収穫まで、**日単位で綿密な生産計画を立て、安定的な出荷を実現。**
- 作業の切り出しが容易である**水耕栽培による葉物野菜生産を選択。**
- **24時間コンピュータ管理のハウスで均一品質を保っており、自社で開拓した量販店、外食企業、百貨店の他、市場を通した販売も実施。**
- 障害者を前面に出した販売はせず、**安全安心な高品質な商品として販売。**
- **近隣福祉事業所への作業委託により、年間延べ5,000人程度受け入れ。**

帝人ソレイユ(株)  
(帝人特例子会社)  
升岡氏

- オーガニック野菜や、エディブルフラワー、贈答用の胡蝶蘭栽培を実施。
- 胡蝶蘭は**取引企業などを中心に販売、販路を拡大。**
- 胡蝶蘭の栽培には、約20の行程があり、障害者それぞれの**障害特性に合わせて作業を分担。**
- 精神障害者を知的・発達障害者の育成担当と位置づけ、**支援員が不要ない自立的な働き方を実現。**
- 2021年に、4年間未達だった法定雇用率を達成し、グループ企業の企業理念・行動規範を具現化。

# 02 農福連携企業向け勉強会

## 内容 (Content)

### 講演

京丸園(株)  
鈴木氏

- 1997年から障害者の受け入れを開始。令和5年9月現在で、従業員105名のうち障害者を25名雇用。
- 年間計画が立てやすく、障害者目線に適した水耕栽培での葉物野菜栽培を実施。
- システムを人に合わせて作るユニバーサル農業を実践。
- 障害者が所属する心耕部を各部署の上位とし、障害者目線で考える指示命令システムを構築。
- 特例子会社、福祉事業所から施設外就労を受け入れる、農業・福祉・企業の連携モデル確立。
- 農業を通じた訓練により、最低賃金除外申請を行うような重度の障害者も、最低賃金を支払えるほどに成長。

### トークセッション

#### 農福連携の苦労とは—4名によるトークセッション

講演者3名に、末松氏（元農林水産事務次官、一般社団法人日本基金理事）を加え、4名によるトークセッションを行った。

- 農福連携を行う上での苦労に対する工夫
- 販路開拓：親会社や取引先の社員に対する農作業体験を実施し、商品や取り組みの価値について理解していただき販売につなげる。
- 利益向上：商品の差別化を図り、障害者に合わせて商品を開発。独自開発の設備を導入し、既存の市場では戦わない。
- 農福連携に取り組むメリット
- 人手不足の解消：必要出荷数の確保が可能となった。
- 社会課題への貢献：SDGsやサーキュラーエコノミーの取組が世界中で重要視される中、このような社会課題に農福連携が貢献できると考える。農福連携による企業と地域の連携が進めば、雇用率の上昇にも期待。



# 03 現場向けセミナー&意見交換会の開催



## 現場向けセミナー&意見交換会（全3回）

### 目的 (Mission)

農福連携に取り組む現場の課題解決を図るため、現場で取り上げられる課題をテーマにセミナーと意見交換会を開催。どのような解決方法があるか、多様なアプローチについて講演者から事例紹介していただき、参加者の皆様と意見交換をし、議論を深める場を設けることで、それぞれ最適な解決策を探っていくことを目的とする。

### 計画 (Action)

#### 開催日

第1回

#### 通年就労の確保

6次産業化や地域連携、多品目栽培などの観点から事例紹介

10/11

第2回

#### 人材育成と繋がり

役職や立場に応じた人材育成や地域コミュニティの活性化策などの観点から事例紹介

12/26

第3回

#### 農福連携の現場におけるIT活用の可能性

農福連携の現場において活用を目指すテクノロジー機器について開発者から事例紹介

2/15

# 第1回 現場向けセミナー&意見交換会「通年就労の確保」

## テーマ

昨年度、農福連携の実践者に事業上の課題をヒアリングしたところ、「**通年就労の確保**」が挙げられた。これは、**農業が季節や自然条件に大きく左右される業種**であること、**冬季などの閑散期に作業が少なくなる**傾向があることに起因する。これに対して、福祉サービスは年間を通じて一貫した需要が存在し、**利用者に対して安定したサービスと活動の提供**が求められる。このミスマッチは農福連携において普遍的な課題と言えるため、ラボ開催のテーマとして採択に至った。

## 講演 (取組紹介)

社会福祉法人  
ゆずりは会  
菜の花  
小淵氏

### 多品目栽培

- ・ 「いつでも仕事がある状態にできること」を目標に多品目栽培を実施。
- ・ 枝豆を始めとした**①収穫から出荷までにゆとりがあり、②季節や天候に左右されない、③収穫時期の長い品目**を中心に、8程度選定。
- ・ **機械化により作業効率化を図り、職員の負担軽減**させることで障害者支援を充実させている。

認定・特定非  
営利活動法人  
UNE  
家老氏

### 地域連携

- ・ 「すべての人が人間らしく安心して暮らせる場を提供する」を目標に、障害者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある方、高齢者、までの**幅広いコミュニティ**を構築。
- ・ 人口減少が課題である中山間地域全体の収入を上げて、農業を持続させていくため、**新たな仕事の創出や商品開発、販路開拓を行政等と連携**して行っている。

(株)リーフエッ  
チ  
田中氏

### 6次産業化

- ・ **利用者の特性に応じてチーム**を作り、近隣農家の受託作業を行うほか、**材料の自家栽培から製品製造までを自社で行い**、6次産業化に取り組んでいる。
- ・ 耕作面積が狭く、台風や高温多湿な気候に見舞われる奄美大島の課題を克服し、**地域性を活かしたブランディング**を行っている。

# 第1回 現場向けセミナー&意見交換会「通年就労の確保」

全体  
ディス  
カッシ  
ョン

課題にあがった項目	対応策
地域全体で収入向上を目指す方法	行政だけではなくJAやCOOPと <b>連携して販路を拡大</b> する。
設備投資に係る費用の確保	事業計画を明確にして、 <b>補助金</b> を活用する。
大規模化、土地の確保	<b>荒廃農地</b> の活用、 <b>中古設備</b> の貸借。
利用者、支援員の人材育成	利用者：安全性に配慮しながら、 <b>特性に合わせて作業</b> を分解。 支援員： <b>研修の実施</b> 、地元農家や普及指導員からの指導。
販売の需要予測	<b>試験販売の実施</b> やコンサルを活用した <b>投資効果の見極め</b> 。
気候、土地に合わせた品目の選定	<b>農業用ハウス</b> で栽培できるもの、 <b>雨雪に収穫が可能なもの</b> 、 <b>出荷までの日持ちが長いもの</b> を中心に選定。

## 第2回 現場向けセミナー&意見交換会「人材育成と繋がり」

### テーマ

- 去年実施した事業者向けアンケートによると、主なノウハウの課題は、大きく「**マッチング、人材育成・不足、農地使用に関する問題**」の3つに分類された。
- 持続可能なノウハウのために、上記課題に関する内容の中でも、特に票数が多かった「**人材育成**」と「**繋がり**」を今回のラボ開催におけるテーマとした。



### 講演 (取組紹介)

(株)ウィズ  
ファーム  
森下氏

- 長野県南部の松川町で、りんごの生産を行う。平成29年に農地適格法人を設立後、令和5年4月に、就労継続支援B型事業所「ウィズユー」を開設。
- 11月には指定特定相談支援事業所を開設する等、**福祉機能を内製化する**。

京丸園(株)  
鈴木氏

- 静岡県浜松市で**水耕栽培**の姫ねぎ・姫みつば・姫ちんげん・ミニちんげんやアイガモ農法無農薬米コシヒカリ等を育てる。
- 平成9年から障害者の受け入れを開始し、令和5年12月現在の**従業員102名のうち障害者を24名雇用**している。

高知県安芸福  
祉保健所  
公文氏

- 高知県東部での地域連携。平成26年のひきこもり支援、自殺予防がはじまり。
- **自殺予防ネットワーク**というコンソーシアムの形で行政に加え、**農家、JA、民間等、多数の関係者で地域で情報を共有できる体制を構築**している。



## 第2回 現場向けセミナー&意見交換会「人材育成と繋がり」

### 全体ディスカッション

#### 人材育成についての課題

- ・ 事業の立ち上げから経営～管理～作業まで**すべて自分1人で担わなければならない**
- ・ 人材（従業員）を採用しても、**定着しない**
- ・ **業務内容が農業から障害者のケアまで多岐にわたる上、屋外作業が大変で人材の定着が難しい**
- ・ 将来的な**事業継承**の~~見直し~~

#### 事業者の視点

- ・ 従業員に管理業務の仕事を積極的に割り当てる。
- ・ 経営と作業を分け、**経営の勉強という役割分担**を行う。
- ・ 組織の方向性を合わせるため**経営理念の策定**を行い、**ユニバーサル農業の実現を明確に打ち出す**。
- ・ 障害者採用は必ず障害者就業・生活支援センター、特別支援学校を介して実施。
- ・ ご子息を従業員として事業継承に向けた準備。

#### 行政側の視点

- ・ ケース対応を一緒に行い、**一緒に考えながら動く**。ケース対応無しに育成は出来ない。**課題を共有しあい連携**できることが重要。
- ・ 農福連携の良さは雇用する側される側が**お互い理解しあいながら進めていく事**。

#### 繋がりについての課題

- ・ 地域農家の高齢化 ・ 販路の確保 ・ 他社との差別化
- ・ 個人の農家が行政と一緒に農福連携を行うことは行政側が難しい
- ・ 障害者の所属部署を組織の中でどう配置して関わるべきか模索
- ・ 人事異動に伴って生じる情報の差や、現場理解の難しさ。連携する仕組みづくり（行政）

#### 事業者の視点

- ・ 事業者が**農地を借り、農地を維持管理**。近隣農家に**技術指導を依頼**するなど地域の農家と協力。
- ・ **NPOを設立**し、地域で農福連携が広まる体制を作る。
- ・ **福祉の観点は地域の福祉事業所からの提案**を聞く。
- ・ **おいしい作物、よいものを作る**ことに注力。自社webサイト、スーパー、店頭販売、アンテナショップ等で広く商品を展開。

#### 行政側の視点

- ・ 助け合いの精神で仲間が増えていった。
- ・ **専門機関の担当者が農家など受入れ先に直接足を運ぶ**。
- ・ **官民連携することで、組織が安心して「生きづらさを抱えた人たち」を就労につなげ、一緒に作業することができる**。

# 第3回 現場向けセミナー&意見交換会「農福連携の現場におけるIT活用の可能性」

## テーマ

- ・ ノウフクラボでは、テクノロジー（ハイテクもローテクも）の力により、ノウフクの**現場の生産性改善のみならず、やりがいや安全性の向上**、ひいては**社会課題の解決**を目指している。
- ・ 今回は「**農福連携の現場におけるIT活用の可能性**」をテーマに、農福連携の現場において活用を目指すIT機器について、株式会社アプリシエイトおよびヤンマーホールディングス株式会社の開発者から製品を紹介してもらい意見交換。テクノロジーの幅広い活用策を探求する。

## 話題提供 (商品説明)

企業名 株式会社アプリシエイト

名称 ハカリマスター i

効果 収穫物の計量結果が適正な時、視覚的・聴覚的に分かりやすく伝達する機能等を備えた計量システムで、計量作業効率の向上と支援者の補助負担軽減に寄与。

仕組みと使い方 ①PCで計量値等を設定 ②収穫物を手に取り計量台に載せる  
③計量結果が適正となった時にイラストや音でわかりやすく表示される  
また、過去の計量記録が蓄積されるため、作業記録を分析することが可能。



企業名 ヤンマーホールディングス株式会社

名称 営農スマートガイド

効果 メガネ型の装着機器。視界に写る作物の色が自動で分析されて、適切な収穫時期であるか否かを作業者にレンズを通して伝達。作業動画データも蓄積。

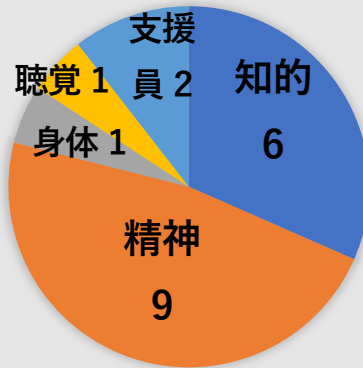
仕組みと使い方 ①アプリインストール（スマートフォン、スマートグラス） ②身に付けて作業  
③作業者が目にしたものを自動記録（収量、収穫日予測、調達リスクが分かる）  
WiFi等の電波環境がない場所でも作業が可能。



# 第3回 現場向けセミナー&意見交換会「農福連携の現場におけるIT活用の可能性」

複数の事業者に「ハカリマスターi」を試験利用してもらい、使用結果をアンケートとして収集。

参加事業者：5  
計測実施事業者：3



参加分類	参加数	平均改善率	改善or悪化	
			改善数 (割合)	悪化数 (割合)
うち知的障害者	6人 (うち1人聴覚、1人精神重複)	191.8%	4人 (67%)	2人 (33%)
うち精神障害者	8人 (うち1人知的重複)	117.7%	5人 (63%)	3人 (37%)
うち身体障害者 (聴覚と視覚障害除く)	1人	33.3%	0人 (0%)	1人 (100%)
うち聴覚障害者	1人 (知的重複)	500.0%	1人 (100%)	0人 (0%)
うち支援員	2人	116.3%	1人 (50%)	1人 (50%)

## 【作業者の感想例】

- ・ (音や絵で判断できるため) 数字を読まなくてよいので作業が早い (支援員)。
- ・ **楽しくできた**。時間が気にならなかった (知的)。
- ・ 動物がかわいかったので良いと思った。**慣れると自分で判断できるようになると感じた** (支援員)。
- ・ **正解になるのが楽しく徐々に早くなってきた** (精神)。
- ・ **ブザー音にイライラして集中力が乱れた**。不正解の時は違う音の方が良いと思った (精神)。
- ・ **パソコンがあると作業の妨げになる。作業に集中できない** (自閉症)。

- ・ **知的障害、精神障害をお持ちの方の作業効率改善に一定程度有効性がみられる結果となった。**
  - ・ 知的障害ではない場合や (健常者や身体のみ等)、極めて軽度の場合に、生産性が低下することもあった。また、動物の絵柄等が馬鹿にされているとネガティブな印象を受けることがあった。
  - ・ 自閉症や、精神障害の方は、不正解の音を不快/過敏に反応することがあった。
  - ・ 導入効果があっても、パソコンやタブレット等、環境を整えるのが大変という声あり。
- ⇒アンケートや意見交換会で挙げられた改良点は開発者の (株) アプリシエイトが今後改善を検討。

会員専用ページでラボの様子を動画で公開しています！

ぜひご覧ください。

The screenshot displays the Nofuku website interface. At the top, there is a navigation bar with the Nofuku logo and several menu items: 'Nofukuを知る' (Learn about Nofuku), 'Nofukuマガジン' (Nofuku Magazine), 'Nofukuプロジェクト' (Nofuku Project), 'Nofukuアワード' (Nofuku Award), 'Nofuku・ラボ' (Nofuku Lab), 'Nofuku ONLINE SHOP', '農福連携等応援コンソーシアム' (Agriculture-Welfare Cooperation Support Consortium), and 'NEWS' (News). There are also search and email icons on the right.

The main content area is divided into two columns. The left column contains a vertical navigation menu with four items: '2 総会資料' (General Meeting Materials), '3 ノウフク・ラボ資料' (Nofuku Lab Materials), '4 その他の活動資料' (Other Activity Materials), and a section for '農福連携等応援コンソーシアム' (Agriculture-Welfare Cooperation Support Consortium) with a megaphone icon.

The right column features a '動画資料' (Video Materials) section. It contains two video thumbnails, each with a play button icon. The first video is titled 'ノウフク・ラボ2022 キックオフミーティング' (Nofuku Lab 2022 Kick-off Meeting) and the second is titled '【トイレラボ】第1回ワークセッション' (Toilet Lab 1st Workshop Session). Below each thumbnail is a brief description of the video content.

2 総会資料

3 ノウフク・ラボ資料

4 その他の活動資料

農福連携等応援コンソーシアム

## 動画資料



### ノウフク・ラボ 2022 キックオフミーティング

2022年度のノウフク・ラボの幕開けとなるキックオフミーティングは、8月22日に開催。昨年度までの進捗と今年度



### 【トイレラボ】第1回ワークセッション

9月22日に実施。トヨタ自動車の取組や、大学教授からトイレ課題の現状をお聞きして、研究員同士でトイレの在り